

恵庭市公園のあり方等検討委員会について(中間報告)

1. 恵庭市公園のあり方等検討委員会とは

公園のあり方等検討委員会（以下、「委員会」という。）は、高齢化の進展や将来的な人口の減少、公園施設の老朽化に更新が追いついていない現状などを踏まえ、公園のあり方等に焦点を当て、今後の取組の方向性を取りまとめることを目的に、恵庭市附属機関設置条例（令和5年条例第27号）第2条第1項に規定する附属機関として、令和5年11月に設置された委員会です。

2. 委員の構成（R7年度）

委員会は8名の委員で構成され、オブザーバーとして国土交通省の担当者にご参加いただいています。

委員長	椎野 亜紀夫	札幌市立大学 デザイン学部 教授（デザイン学部長）
副委員長	小 磯 修 二	北海道文教大学 地域創造研究センター長
委員	富 永 一 夫	一般財団法人 地域活性化センター フェロー
委員	黒 崎 暁 子	樹木医
委員	東 庄 儀 幸	恵庭造園業組合（株式会社園建 取締役社長）
委員	北 林 優	恵庭市町内会連合会 会長
委員	栗 原 和 己	都市公園指定管理者（恵庭まちづくり協同組合）
委員	平 井 梓	NPO 法人まちづくりスポット恵み野
オブザーバー	下 出 大 介	国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 公園利用推進官

3. これまでの委員会開催状況

令和5年11月の委員会設置以降、これまでに会議を6回、シンポジウムを1回開催し、議論を深めています。

委員会開催状況（令和8年1月現在）

	開催日時	場所	参加者※	議事要旨
第1回 委員会	令和5年 11月28日	恵庭市役所第二庁舎2階 大会議室	① 7名 ② 1名 ③ 4名	○現状の問題点や課題の共有 ○論点整理
第2回 委員会	令和6年 1月30日	恵庭市役所第二庁舎2階 大会議室	① 8名 ② 1名 ③ 3名	○試行・調査実施項目の整理 ○恵庭市公園施設長寿命化計画(案) ○シンポジウムの開催
第1回 シンポジウム	令和6年 3月16日	北海道文教大学 本館2階大講堂	市民など 約80名	○公園のあり方シンポジウム2024 使われ活きる公園を目指して
第3回 委員会	令和6年 5月22日	恵庭市役所3階 第2・3委員会室	① 8名 ② 1名 ③ 3名	○試行・調査実施項目の確認 ○シンポジウムの総括
第4回 委員会	令和6年 11月19日	恵庭市役所3階 第2・3委員会室	① 7名 ② 1名 ③ 8名	○試行・調査の現地調査および実施状況の中間報告
第5回 委員会	令和7年 11月10日	恵庭市役所3階 第2・3委員会室	① 7名 ② 1名 ③ 5名	○試行・調査の結果報告
第6回 委員会	令和8年 1月26日	恵庭市役所第二庁舎2階 大・中会議室	① 8名 ② 1名 ③ 5名	○提言書案の確認 ○第2回シンポジウム開催案の確認

※参加者
①委員
②オブザーバー
③傍聴

4. 第5回恵庭市公園のあり方等検討委員会の概要

- 1) 日時：令和7年11月10日
- 2) 委員：椎野委員長ほか前年から変更なし（富永委員 WEB 参加、東庄委員欠席）
- 3) オブザーバー：前任の国交省石川氏異動にともない今回より下出氏（いずれも同職）
- 4) 次第：
 - ①前回のふりかえり
 - ②試行調査の結果報告（別添添付資料1 参照）
 - ③今後のスケジュール



第5回委員会の様子（1）



第5回委員会の様子（2）



WEB 参加する有識者等

5. 第5回恵庭市公園のあり方等検討委員会（報告・審議事項）

論点整理表に基づく5つのテーマ（①共通、②公園利用者のニーズの多様化への対応、③管理運営の担い手拡大、④公園における安全・安心の確保、⑤公園トイレの役割の見直し）に分類して、試行調査に取り組み、各テーマごとに結果を報告し、委員よりご意見をいただきました。

検討項目	成 果
①共 通 1.利用者ニーズの変化に 対応した公園運営のあり方	<ul style="list-style-type: none">・日常データを核にDX化、継続運用が鍵・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加
②公園利用者ニーズ の多様化への対応	<ul style="list-style-type: none">・画一管理から地域ニーズ対応へ転換・小規模パイロットで検証を継続
③管理運営の 担い手の拡大	<ul style="list-style-type: none">・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映・企業連携と器具貸出で担い手拡大
2.誰もが快適に過ごせる 公園管理のあり方	
④公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)	<ul style="list-style-type: none">・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ
⑤公園トイレの 役割の見直し	<ul style="list-style-type: none">・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

①共通（主に公園 DX）

○報告

①ー 1 公園カルテ

①ー 2 公園コンシェルジュ

①ー 3 公園の変化を通報するシステム（LINE）

○提言に向けた整理

■情報を増やせば増やすほど多くの課題が解決できる一方、いかにして維持・継続・改良していくかが課題。

■閉庁日や早朝、深夜の問合せ対応の実現。

■公園の細かな情報を機械的に出力できるため、職員の負担軽減が見込める。

■「LINE」、「公園」、「子育て世代」のキーワードは相性が良く、今後利用拡大が見込める。

○委員からの意見

■AI 回答も公的な回答ととられるため、リスク管理含め公開には慎重に進められたい（小磯委員）

②公園利用者ニーズの多様化への対応

○報告

②ー 1 人口動態・推計調査

②ー 2 公園ごとの周辺環境調査

②ー 3 利用ルール of 緩和

○提言に向けた整理

■公園の周辺環境や使われ方が多様化している。

■これまでの画一的な管理ではなく、それぞれの地域ニーズにあった公園を目指す。

■地区ごとに様々な取り組みを実験的に“やってみる”ことが重要。

■ルール変更によるトラブルは多くはなかったものの、思い切った試行を進める場合は、関係する方への配慮も必要。

○委員からの意見

■公園の画一的な管理から今後は地域ニーズ対応へ転換とあるが、行政の本来の姿は公平性。統一的な指針を示しつつ、その上で地域の要望には柔軟に運用するのが本質。提言において思い切った言い回しは誤解を招きかねない。注意が必要。（小磯委員）

■多様な使い方が求められているのは事実だが、『幼稚園や老人介護施設の傍の公園はこう整備する』という地域性にあった整備方針を定めることも大切。（富永委員）

③管理運営の担い手の拡大

○報告

- ③ー1 地域住民が主体となる組織の活動の現状調査
- ③ー2 公園管理器具貸出制度の創設
- ③ー3 ヒアリング型市場調査の実施
- ③ー4 企業と地域のマッチング

○提言に向けた整理

- 公園を地域の交流の場として捉える意識は地区ごとに差がある。
- 現状利用が活発な公園は、積極的に地域の声を取り入れ、公園の管理運営への参画を促す。
- 器具の貸出しは、新たな管理運営の担い手の拡大に大きく寄与。
- 新たな公園の管理運営の担い手として興味を示す企業と継続した協議を実施。他の地域のモデルとなる活動のベースを作り、他地域にも拡大。

○委員からの意見

- ボランティアに公園管理を手伝ってもらうことは良いことだが、市の管理体制は維持しつつ、ボランティア活動は「付加価値」とすべき。(富永委員)

④公園における安全・安心の確保

○報告

- ④ー1 地域と取組む公園樹管理の試行
- ④ー2 アプリによる公園樹管理の試行
- ④ー3 みどりのステーション制度
- ④ー4 モデル公園におけるデザイン統一
- ④ー5 SDGs やグリーンインフラへの対応

○提言に向けた整理

- 公園における「安全・安心」は、いかに公園に関わる人を増やすかが重要。
- あさひ公園における取組みは今後さらなる拡大が見込まれる。

○委員からの意見

- 去年のひどい状況から今年は公園自体も関係者の意識もガラッと変わって驚いた。このような取り組みはシンポジウムで紹介して他公園にも展開されたい。(黒崎委員)
- シンポジウムにはあさひ公園で活躍された町内会の方にも是非参加してほしい。(椎野委員長)

⑤公園トイレの役割の見直し

○報告

- ⑤ー１ 公園トイレの利用実態調査
- ⑤ー２ 公園トイレ改修効果の検証
- ⑤ー３ 公園トイレの必要性に関するアンケート調査
- ⑤ー４ 一時避難所のトイレの必要性検証
- ⑤ー５ ネーミングライツに関する調査
- ⑤ー６ 近隣市のトイレ設置状況等の確認（参考調査）

○提言に向けた整理

- 回答者全体の 56%が過去 1 年間で公園トイレを使用したことがない。
- トイレ利用者の 65%が不快であると感じている。
- 回答者全体の 83%が公園トイレの廃止・存廃の検討に理解を示している。
- 議会等からも便器の洋式化、拠点公園の通年開放が求められている。
- アンケート結果を踏まえ、安心・安全で清潔なトイレを維持するため、統廃合を含めた公園トイレの全体的な方針を示す必要がある。

○委員からの意見

- トイレの廃止を前提とした議論ではなく、恵庭 3 地区にきれいなモデルトイレを整備してトイレのイメージアップを図ってはどうか。（北林委員）
- 一方で、老朽化や維持管理費の高騰する中で、今の数を維持していくべきなのか、適正な数を適正に配置することを検討する必要があるのではないか。（椎野委員長）
- 各種調査で現状のトイレの維持管理ではダメなことがわかったので、市は公園トイレを改善していく姿勢を発信し、市民とともに考えていく必要がある。（黒崎委員）
- トイレの必要・不必要な場所を地区ごとに見極めつつ、ライフスタイルの変化を踏まえ、ハード面ではオール洋便化を検討したり、トイレ環境の改善に向けては清掃関連企業が自社の清掃力 P R のため無償で公共トイレを清掃している事例も参考にされたい。（富永委員）

6. 今後のスケジュールについて（予定）

第6回委員会で提言書（案）について審議し、2月開催予定の第7回委員会において提言書の最終案を確認したうえで、3月に委員長から市長へ提言書を提出する予定で進めております。

なお、本委員会は各回とも傍聴が可能であり、審議内容についても市ホームページに掲載するなど、市民に広く公開しています。

また、これまでの委員会における審議内容や、今年度末に委員会から提出される提言を踏まえた今後の公園のあり方について、市民とともに考え、共有する場として、令和8年7月に第2回シンポジウムの開催を予定しています。

